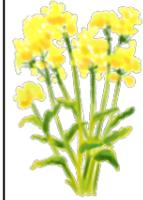


コイノニア



3月の礼拝テーマは「他者のために祈る」となっていますが、その背景には「東日本大震災」があります。私たちの学校では、2011年の夏から「城南ボランティアプロジェクト」と題して数年間、被災地へボランティアに行きました。次に、被災地でフィールドワークを担当して下さった元教員の先生に来ていただいて、文化祭で講演をしていただきました。それから2年生の修学旅行で福島を訪問し、今度は訪問先の野口英世記念館の方に来ていただいて講演をしていただきました。毎年、みなさんが特別礼拝で献げてくれた献金で、被災地に愛媛県産の伊予柑やみかんを送っています。それに対してのお礼のお手紙も届きます。私たちの学校ではこのような被災地の方々との交流を続けてきました。

「わたしは、あなたがたのことを思い起こす度に、わたしの神に感謝し、あなたがた一同のために祈る度に、いつも喜びをもって祈っています。」
フィリピの信徒への手紙1:3-4

愛媛と東北はとても離れています。すぐに会いに行くことはできません。だからこそ私たちは、祈りの中で被災地に生きる人々を覚え、その思いを見える形として“伊予柑”や“色紙”(毎年みかんの箱にメッセージ色紙を同封しています)に込めて送るのです。

“We will remember you forever!!～わたしたちは忘れない～”

この言葉を、被災地支援のテーマとして掲げてきました。祈ることから始まる関係をこれからも大切にしていきたいと思えます。

誰かのことを思って、誰かのために願って祈ることのできる喜びは、私たちの心を大きく広げてくれます。自分の周りにいる誰かのために、「他者のために祈る」ことを学校生活の中でも試みてください！祈ることみなさんの心が豊かに成長することを願っています。

聖書・キリスト教の漢字～これなんて読むの？～ #11 「恩恵・恩寵」

「恩恵(おんけい)」「恩寵(おんちよう)」と読みます。

『キリスト教でいう恩恵は、やはり神の側からの、人間に対する態度、働きかけを言う。つまり、イエス・キリストの死と復活を通して示された「神の愛」を表現する言葉となっている。－中略－イエス・キリストにおいて表された神の恩恵、信仰によって与えられる神の恩恵は、罪の許しの恩恵であり、和解の恩恵である。そればかりではなく新しい生命を得る恩恵でもある、とされる。』(「キリスト教を知る事典」著者:外村民彦/教文館)

また恩恵・恩寵は、英語では“Grace”という単語ですが、本校でも毎年礼拝で讃美している“Amazing Grace”(讃美歌21 451番「くすしみ恵み」)の歌詞に表されているように、私たちはいつも神さまの恩恵を受けて生きる存在です。悩んだり、迷ったり、苦しいことがあっても、神さまは絶対に私たちを見捨てず、愛をもって一緒に歩んでくださるのです。



3月の予定

月間聖句

「わたしは、あなたがたのことを思い起こす度に、わたしの神に感謝し、あなたがた一同のために祈る度に、いつも喜びをもって祈っています。」
(フィリピの信徒への手紙1:3-4)

月間テーマ

「他者のために祈る」

11日(金)

3.11祈念礼拝

2011年3月11日に起きた東日本大震災を覚えて礼拝を守ります。「わたしたちは忘れない」という思いを大切にしたいと願っています。

松山学院ものがたり #11 同志社で学んだ先輩たち(4) 魚木忠一



松山夜学校に入学し、ジャクソン宣教師や西村清雄のもとで勉学に励むと共に礼拝や祈り会、そして松山教会へ出席するようになった。彼の青年時代は夜学校と教会で過ごす時間が大部分を占めていた。

1918(大正7)年に二神喜十(本校第二代校長)と共に同志社神学校に入学。卒業後、北米ニューヨーク市ユニオン神学校やコロンビア大学、ドイツのマルブルク大学でキリスト教史と哲学史を専攻。彼のキリスト教精神史の研究、バルト神学の紹介については立派な功績が認められている。1927(昭和2)年から母校同志社の神学部で教え始めた。後に教授となり、1954(昭和29)年に神学部長になった。また「新島襄」(同志社の創立者)を著作し、新島襄がキリスト者としていかに生きたかをまとめている。

*参考文献『松山城南高等学校創立110周年記念 愛と信仰の詩』

魚木忠一は、同志社時報(同志社が発行している機関誌)「第56号 1975.11 創立100周年記念特集号」でも取り上げられており、同志社大学の公式HP内で閲覧することができます。(「同志社人物誌(39)」で紹介されています。)

☆今月の「喜ぶ人と共に」大賞☆ 被災地へ思いを届けよう!

1～2年生の聖書の授業で、被災地の方々へ送るメッセージ色紙を作成しました!



被災地へ送るみかんを作った下さっている渡部寛志さん。福島県出身で、2017年の文化祭で講演していただきました。